

編：日本皮膚科学会

実践！ 皮膚病理道場 バーチャルスライドでみる皮膚腫瘍 [Web 付録付]

書評者：鶴田 大輔(大阪市立大学大学院教授・皮膚科)

バーチャルスライドを利用した『実践！ 皮膚病理道場 バーチャルスライドでみる皮膚腫瘍 [Web 付録付]』を強く推薦する。時空を超えた新時代の学習ツールであるからである。

初めてバーチャルスライドを体験したのは、2年前に日本皮膚病理組織学会が主催する「皮膚病理道場あどばんと」にチューターとして参加したときである。とにかく驚いた。なんと楽しいのだろう！ 顕微鏡がなくても、コンピュータ上で、自分の見たいところを自由自在に心ゆくまで見ることができ、いつでもどこでも病理組織の学習ができるのである。例えば、腫瘍を構成する個々の細胞において、核と細胞質の形態をじっくり見ることができる。「この腫瘍の構成細胞の核の形態は？ 核小体の見え方は？ 胞体の色は？ 大きさは？」などを目に焼き付けることができる。また、そのときに学んだものをいつでもどこでも、顕微鏡がなくても繰り返し復習できるのである。バーチャルスライドがあれば、学習は時空

を超えるのである！

これまで、病理組織学を学ぶためには、大書をひもときながら実際に病理組織標本を顕微鏡を用いて眺め、一つひとつ個々の症例を積み重ねるしかなく、皆で共用使用する顕微鏡を「取り合いながら」利用せざるを得なかった。このため、これまでの病理学習は、臨床に追われて全ての業務が終了した後の「深夜」あるいは「土日」に行くイメージになっていたと思う。そうした意味では、本書はこのイメージを完全に超越している。なぜなら、コンピュータ1台あれば、昼間から空き時間に病理学習ができるからである。

今や、1,000 g を切るパソコンは至るところにある時代である。病棟や外来で、ちょっとした細切れ時間でも病理学習ができるようになったメリットは計り知れない。実際に私もこの書籍をバーチャルスライドを見ながら通読してみた。日常診療の合間でも細切れ時間は結構あるものである。実質2, 3日で通読可能であった。

通読してみて以下の感想をもっ

た。1)これ一冊で初学者が遭遇するであろう皮膚腫瘍を網羅している、2)大書では目に留まりにくい重要所見がコンパクトに「何度も」まとめられている、3)上級者にとっても必要な所見が書かれている。

書籍に掲載されている写真はどれも秀逸で、記載もコンパクトかつ簡潔、そして重要事項は何度も繰り返し、それぞれの学習レベルに合わせて定着できるようになっている。単著ではないため、ごく一部に統一感のない記載もあるが、それぞれの執筆者の熱い思いが逆に伝わってくるようで好感を持てた。

今後、第二弾として、炎症性疾患についての本書の続編が登場することを強く期待する。そうすれば、病理学習は真に時空を超えることになるであろう。

● A4 頁200 2015年5月
定価：本体12,000円＋税
[ISBN978-4-260-02118-0]
医学書院刊